

身近な話題をお寄せください。

カメラ・アイ

(秘書広報課・内線186)



希望を胸に 新たな旅立ち

卒業式の季節を迎え、東濃看護専門学校でも35人の卒業生が、三年間の思い出を胸に学び舎を巣立ちました。(3月5日)

夢の灯り まちの灯り

青年会議所の企画による親子の手作りランプシェードが、駅前通りの一角を幻想的な雰囲気包みました。(3月2日)



土岐川で鯉の放流が行われ、浄化センターで育てられた八百匹の鯉が、子どもたちの手で放流されました。(3月8日)

清流を夢見て



文化プラザで、はなの木大学の閉校式が行われ、合唱や踊り、手芸など一年間の活動の成果を披露しました。(3月7日)

学ぶ楽しさ あふれるステージ



Jリーガーと夢のひととき

駄知体育館でふれあいスポーツフェアが開催され、子どもたちはJリーガーと夢の対戦を楽しみました。(3月16日)

春は火災の季節です

林野火災に備え、定林寺湖で林野火災防ぎょ訓練が行われ、土岐津・肥田・泉分団が参加しました。(3月9日)





市史だより ふるさと歴史ウォーク 35

最終回

明治の小学校・成始学校の跡

北山の旧法務局

駄知町北山

駄知町の北山交差点の少し北に古い建物が立っています。旧法務局として記憶の方も多いことでしょう。実は、この建物は明治の小学校「成始学校」の面影をとどめている貴重な建物です。

最初の小学校は、明治六年三月、長久

寺の本堂を仮校舎として開校しました。啓明舎支校成始学校といいました。翌年、学校は観音堂に移り、明治十年には、塚本惣右衛門の空き家に移りました。そのころから、しっかりと校舎を建てようという話を持ち上がり、数年かけて現在の北山の地に立派な校舎が建設され、明治十六年（一八八三）十二月、開校式



が行われました。その日は日本晴れで、当時としては、ハイカラな学校を見ようと大勢の人が集まり、たくさんのおうちや、美しい花の門などで飾られた学校の姿に目を見張りました。式典では、太田学務課長、大槻平美土岐郡長ほか多

くの来賓が祝辞を述べ、盛大なものとなりました。駄知の子どもたちが元気に勉強し、巣立っていったこの校舎は、明治十八年十一月、駄知尋常小学校と名称が変更されました。

それから十数年後、駄知の人々は、学校が手狭になってきたのを機に、大きな校舎を造ることを相談し、現在の駄知公園のある場所に、見事な校舎を完成させました。明治三十六年十二月、学校の移転とともに、北山の学校は二十年の歴史を終えました。

その後、建物は明治三十七年から駄知村役場、明治四十二年から駄知町役場、昭和十三年から御嵩区裁判所駄知出張所、昭和二十二年から岐阜司法事務局駄知出張所、昭和二十四年から岐阜地方法務局駄知出張所、昭和五十九年から駄知町婦人青年の家と改名して活用されました。

一つの建物にも、さまざまな祖先の思い出と長い歴史が刻み込まれているのです。



クローズアップ

第17回二宮文化賞を受賞

長谷川宇三さん（妻木町）

長年の写真活動を通じ、市の芸術文化の振興に貢献した功績が認められ、今年、第十七回二宮文化賞を受賞した長谷川宇三さん。長谷川さんが写真撮影を本格的に始めたのは、二十歳のころだったという。写真好きな友人の影響で、カメラがまだ珍しかったその当時に、月給八千円だった長谷川青年は、給料のおよそ三倍、二万三千円の大枚をはたいて初めてカメラを手にした。それ以来、自宅の土蔵の中に暗室まで造ってしまうなど写真に対する情熱は人一倍で、昭和四十六年、五十年、五十五年には土岐市美術展で市展賞を受賞した。

最も印象深い一枚を尋ねると、かつて新聞社主催の写真展で入選を果たした写真を挙げられた。スキー場のレストハウスの凍った窓越しに、幻想的に見えた人影を写したその写真は、何気なく見落としてしまいがちな「日常の美しさ」を捉えたものだった。

「被写体は、やはり人物より風景が好きだ」と言う長谷川さんも、今は、幼稚園に通う孫の写真撮るのが楽しみだと、優しいおじいちゃんぶりを発揮している。